



宇津貫みどりの会 第103号

宇津貫みどりの会
連絡先 城所幸子
TEL/FAX 042-636-2466



節分が過ぎ、暦の上では春です。一番に咲くのはウグイスカグラ、その次が写真のロウバイ、緑地の窪地ではフクジュソウが咲いています。ロウバイは開放ゾーン、横浜線の線路側に50本あります。2015年「ふるさとの森再生事業」の助成金を得て、一般市民が参加して植えました。夏にはクズに覆われクズ取り、下草刈り、剪定をするなど手をかけてきて優しい蟻のような花をたくさん付けました。

「宇津貫みどりの会」発足から31年を経て、山の手入れのみならず、次世代へ宇津貫緑地の環境を維持管理していくために、学習の場として守り手を育てることが課題となっています。次年度はその思いを新たに地域の方々、学校などに呼びかけ、先ずは緑地へ足を運んでもらう企画を計画してまいります。宇津貫緑地は自然がいっぱい、不思議もいっぱいです。五感をとぎすましていろんな発見をしてほしいです。

1月末には七国小5年生が落ち葉掃きの体験学習をしました。落ち葉が数年経つと腐葉土となることを観察し、落ち葉の布団に寝ころびその感触を味わったようです。皆さんもぜひ、緑地へいらして何かを発見してください。

宇津貫みどりの会
城所 幸子

宇津貫緑地へのお誘い

宇津貫緑地の手入れ作業の見学、および体験は随時受け付けています。会のホームページにて、活動日をご確認の上、お問い合わせください。

連絡先：城所 042-636-2466まで

当会のホームページをご覧ください。

<http://utsunukimidori.ie-yasu.com/>

又は、QRコード



宇津貫緑地の魅力 第二回

～宇津貫緑地に、何があるの？～

前回(機関紙101号)では、宇津貫緑地がどこにあるかを紹介しました。

宇津貫緑地は、普通の公園のように誰でも散策できる一般開放ゾーンと、許可が無いと入れない特別保存ゾーンがあります。

今回は、その特別保存ゾーンの中に何があるかのご案内です。一言で言うならば、八王子みなみ野シティが開発される以前の「里山」が残されているところです。薪や炭の材料として利用された、クヌギやコナラなどの落葉広葉樹を中心とした雑木林の丘と谷(谷戸と言われる)があり、兵衛川の源流部もあります。また、みなみ野シティ開発のための調整池、他地区の代替として田(谷戸田)が新たに作られました。

そして、宇津貫緑地の植生および環境は、丘の尾根の明るい雑木林から、皆伐更新地(注)、針葉樹の人工林、半日影の谷、湿地、田、池、草地、竹林と多岐にわたっています。そして、この多彩な緑地の環境が、動植物の多様性に大きく貢献しています。宇津貫緑地では、植物671種、鳥類65種が確認されています。

注:ある程度まとまった面積の木を全て伐ることを皆伐と言い、老木を若い木に入れ替えること、および入れ替わることを更新と言います。

1、四季を通じた草木の花々

宇津貫緑地の最大の魅力は、やはり、早春から晩秋まで、草木の花々が次々と咲き、私達の目を楽しませてくれることです。

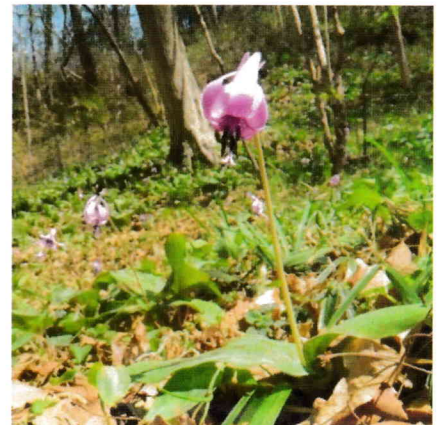
1月中旬頃からは、特別保存ゾーンでは、ウグイスカグラを先頭に、フクジュソウ、カタクリ、スマレ類など春の賑わいが始まります。その後も、あちらこちらで次々と花が咲き、落ち葉の頃、ヤクシソウが散ると冬を迎えます。



ウグイスカグラ



フクジュソウ



カタクリ

2、多彩な地形と環境

緑地の特別保存ゾーンは約10ha(約200mx500m)の広さですが、上記に述べたように、丘あり谷あり、川あり池ありとさまざまな環境が存在していて、少し歩いただけでまるで別世界に迷い込んだようです。

緑地内のいくつかのポイントを紹介します。

(1) 窪地(くぼち):

窪地と呼ばれる小さな谷が、緑地内に多くあります。どの窪地も半日影の環境ですが、広さ、地形が様々で、個々の窪地で育つ花々が異なっていて趣が違ってきます。これは、宇津貫みどりの会の初期に、会員自らこの地を開墾して、開発で消えてしまう野の草花(今では絶滅危惧種も含まれます)を、移植したためです。(詳しくは、設立30周年記念誌「里山の守り手の物語」をご覧ください)

(2)尾根

ログハウスからは、標高差20-30m位丘を上ただけですが、アップダウンもあり、本格的なハイキングコースのような尾根道があります。雑木林なので、新緑から黄葉まで、四季折々に表情が変わります。特に、春には日当たりの良いところにヤマツツジが燃えるように咲き、冬には枯れた木立の間から、遠く富士山や奥多摩の山々が望む眺望も加わります。



ヤマツツジ咲く尾根道



晩秋の尾根道



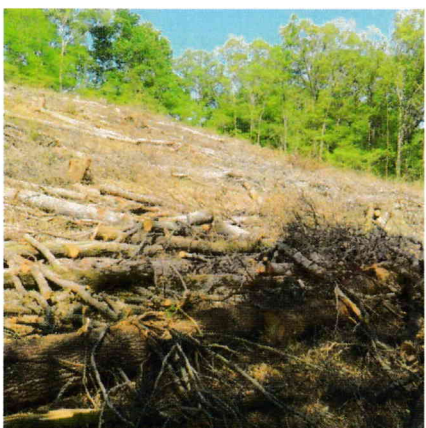
源流の湧水口

(3)兵衛川源流

源流部は、深い木立の谷の奥にあり、急な崖や斜面に囲まれ神聖な雰囲気にも包まれています。その急斜面に窪みができていて、そこから水が染み出てきます。源流部以外にも、緑地内の斜面の至る所に水が湧き出ているところがあります。湧水の上は20m位のほんの丘ですが、沢山の湧水口があり、枯れることのない水量に驚かされます。

(4)皆伐地

特別保存ゾーンには、皆伐地が3か所あり、約10年前に2か所、3年前に1か所皆伐しました。伐った後にはすぐに色々な木や草が生えて、半年経つと人が入れない程埋め尽くされてしまいます。自然の生命力と言うか回復力に驚かされます。そして、元々生えていたクヌギやコナラ以外の木や草を根気よく刈っていき、明るい雑木林に育てていきます。



皆伐直後



1年後の皆伐地



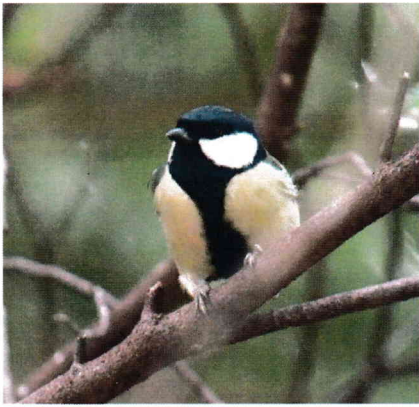
春の調整池

(5)調整池

調整池は、周囲の木々の色を映すだけでなく、初夏にはアサザの黄色いの花が咲き、冬にはカモのねぐらを提供しています。また、時々カワセミもやって来て魚を狙っています。そんなのどかな池ですが、大雨が降ると、みなみ野シティに降った雨が、緑地内の調整池に流れ込み、池の水位は2m以上上がることもあります。そのような、兵衛川の水量を制限する働きもあります。

以上は、宇津貫緑地のほんの一部です。ぜひ、ご自身の目で確かめてください。
私達からの一言：宇津貫緑地は不思議がいっぱい それを見つけるのは あなた

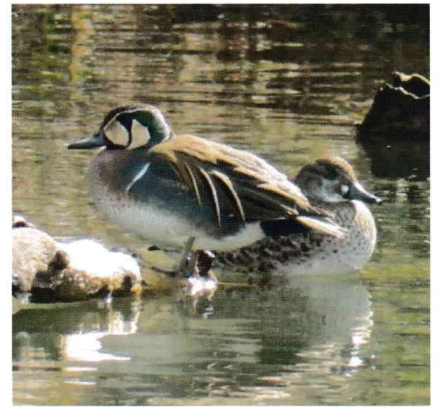
宇津貫緑地に来る鳥たち



シジュウカラ



アオゲラ



トモエガモ

【イベントの報告】

昨年11月5-6日に、由井市民センターみなみ野分館にて、宇津貫みどりの会 設立30周年記念「あゆみ展」を開催し、併せて、リース作り教室も行いました。



展示の様子



出来上がったリース

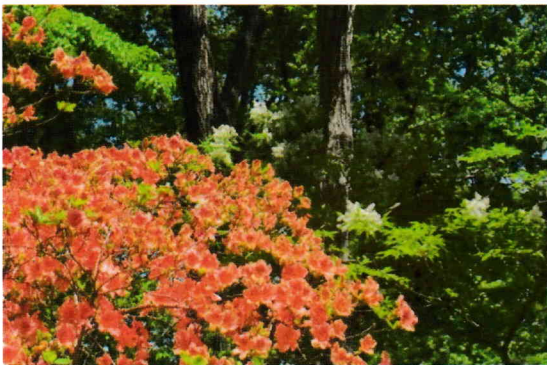
【イベントの予告】

春の里山散策（宇津貫緑地内散策）

*日時：4月23日(日) 9時-11時(予定) (小雨決行)

*受付：宇津貫緑地 ログハウス前

なお、詳細は、約1か月前になりましたら、HP、ポスター等でご連絡します。



【編集後記】

今回は、一般の方は立ち入り禁止にしている宇津貫緑地の特別保存ゾーン内の一部について紹介しています。

上の予告のように、年に何回かは、私達スタッフがご案内して、緑地内を散策していただく機会を設けています。興味を持たれた方は、訪れてみてください。